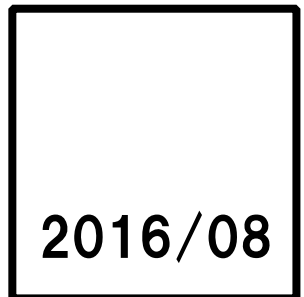




神奈川県立川崎図書館が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。



今年の6月に開催した、2015年に
刊行された所蔵社史を展示する「社史フ
エア2016」では、来場者の皆様に投
票用紙を配り、気に入った社史と、その
理由（コメント）を任意で書いていただ
きました。

結果、144票が集まりました。投票
の対象が200点以上あるからか、票は
58社の社史に分散しました。

今回の「社楽」では、投票の結果発表
と、記入していただいたコメントを紹介
します。コメントは読みやすくするため
に一部の文章を整えたものもあります。



1位は、ワイン輸入会社のモトツクス
の『1st Vintage』（モトツクス100年
史）でした。社史ができるまで講演会
（21回目）でも取り上げた社史です。
コメントでは「読みやすい。楽しい。
業務風景の写真がふんだんに盛り込ま
れ、どんな会社、社風か、どんな人がい
るか、肌感覚で伝わってくる仕組みがす
ごい。」「社員のざっくばらんなアンケ
ートや社員全員の写真、百年分の社員名簿
など、会社の一体感があつて良かった。」「
「装丁、ビジュアルが美しい。読みたい
気持ちにさせる。働く社員への愛が感じ
られる。」「社史を作るコンセプトが、

他のものと、全く違う。」をはじめ、デ
ザインや文章などへの評価もいただいで
います。

2位は、三井文庫による『史料が語る
三井のあゆみ』。三井グループの歴史を
江戸時代から戦後の財閥解体の前後ま
で、史料を軸に説明したものです。

「人物や史資料の写真がふんだんに掲載
されている。三井のあゆみがテーマに沿
ったトピック的な表現で、とても興味を
そそられる構成になっていて楽しい。」「
「図鑑のようなページデザインが見やす
く興味を湧かせる。」「史料があること
（これからも大切に残していったほし
い）。そこから、紐解いていく形が面白
かった。」などのコメントをいただきま
した。

社史フェア、コメント発表

(1面からつづく)

3位は、化粧品メーカーの『柳屋本店400年史』。400年目で初の社史刊行。1902年刊行のカタログ(おつくりの葉)の復刻版を付けています。

「表紙に源氏香の柄が使われていて、おしやれだった。1600年代から書かれている社史はあまりないと思う。また、古い事が書かれていても、堅くなく、読みやすい作りだった。」「創業者や経営者の業績を美辞麗句で飾るのではなく、失敗した事や努力の歴史について記述している点は、他社の社史には殆ど見受けられない点で秀逸と言える。400年の歴史を貴重なアーカイブス資料と共に、わずか140ページにまとめられていることも素晴らしい。復刻版は、特筆すべきアイデアである。」「400年という他にはほとんどない歴史を、美しい構成と伝統も踏まえながら作られていた。」などのコメントをいただきました。

順位の公表はここまでです。上位3冊が縦書きというのは、すこし意外でした。

ほかにも、たくさんのコメントをいただいているので、すべてではありませんが、特徴的なコメントを、以下に順不同で紹介합니다。

● 『拓くダイキン工業90年史』& 『継ぐダイキン工業90年物語』

「我が国の冷凍・空調機の歴史的発展が理解できた。」

「90年史はすべての会社の出来事(良し悪し事も)を載せて、人物紹介もあり、創業から現在までの社風を含めた流れがよくわかる。90年物語は、より「人の動き」にスポットを当て、エピソードも多く盛り込んで物語風によく分かる会社紹介となっていてよい。」など。

『ニツカウキスキー80年史』：「創業者の理念が伝わってくる。美しい写真。心に届くコラム、かつオーソドックスな社史の要素も押さえている。」「すつきりとしたレイアウト。表紙と中身の雰囲気との統一。」「インデックスの付け方が良かった。」

住宅メーカーの『瑞典變物語』(スウェーデンハウス)：「社史の既成概念を気持ちよく壊してくれている気がした。」「社史というより内容が面白かった。」

自動車を輸入販売する『ヤナセ100年の轍』：「懐かしいイメージから現代風に変わっているな、と感じた。第1章から第4章までの章の見出しの写真がセピア色であること、誌面の写真や図版も白黒であるためだと感じた。章の見出しに東京オリンピックの写真を用いた第5章以降は、カラーの写真や図版で上手くまとめられている。」「DVDも含め、時代がビジュアルに感じられた。」

カーレースの『童夢の軌跡』：「豊富な写真でレーシングカーの珍しい外観のみならず、設計時や製造時、レース時等の活気ある現場や、それに向けた人々の熱気や思いが伝わってくる一冊だった。」

「社史というよりはカタログに近いのですが、それを割り切ってアプローチしています。」「家でコーヒードでも飲みながら、ゆっくり読みたいと思わせる。」

新宿駅で駅弁を販売していた『新宿駅と歩んだ田中屋の足跡』：「お弁当のカラー写真や昔の掛け紙等が多くあり、眺めるだけでもよいし、読み物としても楽しい。」「業界史的な側面がある。お弁当の掛け紙の図版を見ていて楽しい。」

ビジネス向け印刷などの『TOPPAN FORMS 50th』：「仕様がしっかりとしている。(展示の掲示に) パッケージの資料もあったので、わかりやすかった。」「しっかりととした製本。歴史と製品で分けられて作られており、わかりやすかった。」「パッケージとしての完成度。」

住友重機械の『プラスチック機械事業部50年史』：「文章と写真のバランスが良く、1ページ1ページ変化にとんでいるので、飽きがない。」「ページのレイアウトデザインに一貫性があり読みやすい。基本的に、客観的な記述ではなく一人称の記述方法で社員の共感を呼ぶものと思える。写真・画像のキャプションとともに日本語・英語・中国語が併記され、新たな試みであると思う。」「業績資料も散りばめられ、ビジネススクールの教科書のような仕上がり。読ませる社史のお手本のような構成。」

外食産業の『おもてなしの心で50年うかいの歩み』：「創業者の信念とそれを引き継いでいこうとする、企業の姿勢がしっかりと伝わる。美しい写真。新たな店舗をオープンするたびに発展してきた歴史がよくわかる。」

◀ 今年は212点の社史を展示しました。



『東洋紡百三十年史』：「歴史をきちんと残そうとする姿勢を特に感じた。会社は社会の一部だという考えが伝わってきた。装丁も含め、細かいこだわりにも好感。」「圧倒的なボリューム感。」

三菱重工業の『下関造船所百年史』：「社史版「プロジェクトX」。関係者のコメント取りを積極的に原稿に取り入れた構成はまさにストーリー仕立て。社史をドラマとして読ませる構成は、もはや純粋に「読み物」である。」

船舶用機械などを製造する『東亜工機70周年記念誌』：「見出しが全て2文字の漢字になっている。見出しのオーラをあえて消している。」

建設、鉄鋼、機械事業などを営む新光産業株式会社の『創業80周年記念誌 風雪に耐え、そして地域に育まれて』：「工場の空撮写真に細かい説明があり、家族に見せても喜ばれるのでは。私はへえと見入ってしまった。」

『北おおさか信用金庫90周年記念誌』：「年表軸で見開きに情報の区分けをしていて、ぱつと見でわかりやすい。」

『郵船ロジスティクス株式会社60年史』：「下段三分の一のスペースに英訳を入れている。取引先がグローバル化する中、従来にない工夫に感銘。」

(4面につづく)

(3面から続く)

ヤンマーの社史の英語版の『100 YEARS OF YANMAR』:「多言語制作の編集に携わっているため、美しい英文のレイアウトに感激した。英文の自然さ、読みやすさも大変勉強になった。」

鉄道車両の整備や鉄道電気工事などを営む東急テクノシステム『75周年記念誌』:「あとがきで事務局の選任の理由を、百周年では中心として活躍しているであろう20代若手社員を起用、と明記している点に、次の節目に向けた思いを感じた。」

「創立から50年の年表が見やすい。1990年から最近までも、必要なことを書いている感じがした。ページ数を合わせないのが好印象。」「社員一人一人がフリップを書いて、写真に収められているのが好印象。」

プラスチック製品の総合メーカー『住友ベークライト60年のあゆみ』:「特に、製品史として約70ページにわたって、タイプ別の記載がされていて見やすい。展示会の写真を多く載せているのも面白い。」「様々な視点から、会社の歴史を詳しく記していた。多彩な項目も魅力的でした。」

『平凡社百年史』:「コラムを上手く用語説明的に入れていて、資料なのに読みもののようになるのは、出版社の社史ならではのワードも上手い。面白くて読ませる社史。」「博報堂120年史」:「本の装丁デザイン。2本立ての企画。」「読み物として面白い。」

『ひめぎん物語 愛媛銀行創業百年史』:「銀行の社史にここまで書いていいの?と思うような、会社の意思決定や入社年次の若い社員のエピソードもあり、非常に新鮮。」

化学薬品メーカーの『松垣百年』:「表紙のタイトルにインパクトがある。社史であり扱われない書体だと思う。カルタや計算書などが面白く、本文を含め、読みやすかった。」

海難救助や海洋工事の『日本サルヴェージ株式会社80年史』:「単なる社史ではなく、海難事故の歴史書、さらには海難救助の技術発展の歴史を知ることができる。社史を越えた書物(記録書)として重要。」

四国タオル工業組合が刊行した『今治タオル120周年記念』:「写真、デザイン、それぞれとても綺麗で、読んでいて晴れやかな気持ちになった。タオルへの情熱、その質へのこだわりが伝わる年史だった。」

いかがでしたか。

さながら品評会のようなコメントが集まりました。「楽しかった」など気楽なコメントを含めて、これ以外にも多くのコメントをいただいています。

投票は、順位付けを目的としたものではなく、どんな社史に人気があるのか、どういった点が評価されているのか、をお伝えしたくて実施したものです。

ご参考になれば、幸いです。

(科学情報課・高田)

●お問い合わせ先

神奈川県立川崎図書館 科学情報課

〒210-0011

川崎市川崎区富士見2-1-4

電話:044-233-4537

FAX:044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>